



主な研究活動

金 貞我	韓国 ソウル、金堤市他（8月22日～31日）
中央博物館、民俗博物館、漢陽大学博物館、農業博物館（ソウル、金堤、木浦）において韓国編生活絵引関連資料調査	
福田 アジオ	韓国 ソウル（8月28日～31日）
延世大学博物館、国立民俗博物館、漢陽大学博物館等において、朝鮮編生活絵引関連資料調査、および利用申請・便宜供与の依頼	
北原 糸子	韓国 ソウル（8月28日～31日）
関東大震災関係写真データベース構築のため関連する資料所在地の現地調査	
香月 洋一郎	高知県長岡郡（8月28日～31日）
大豊町での「環境認識とその変遷」作業班の補足調査	

1班『東アジア生活絵引』編纂 公開研究会報告

2006年7月22日 於COE共同研究室

楊貴妃になりたかった男たち 『点石齋画報』に見る〈女装くん〉

講師：武田 雅哉（北海道大学文学部教授）

今回講師としてお招きした武田雅哉氏は、絵画資料をもとに「時代の精神」を読み解く仕事をことのほか得意としている。研究会では、清朝末期に発行されたかわら版『点石齋画報』に見られる女装、男装にまつわる事件を中心に話していただいた。

『点石齋画報』は当時の人々が実際に出入りした事件や、想像した外国の事物を驚異のままざしをもって伝えた、清末社会の息吹を感じさせるすぐれた資料である。

「画報」という名前が物語の通り、事件を報道する文章ばかりでなく、実はそれに附された、というより堂々主役を張っている挿し絵（報道画）にも事件の真実を伝えるヒントが隠されており、「画報」を読む際には、読者の絵画を読み解くテクニックもまた要求されるわけである。

研究会ではその読み解きのテクニックを伝授していただいた。また関連するいくつかの現代アートについても解説していただいた。『点石齋画報』の伝えるスクランダルな事件や現代アートは、われわれ1班が『東アジア生活絵引』を編む作業で資料として使っている「姑蘇繁華図」に描かれた善良で秩序ある世界とはおよそ対極をなすものである。しかし両者は我々がしばしば悩まされる「絵画と真実」という深いテーマで接点をもっている。図像の解読作業においては、ややもすればこの点を忘れがちになるが、今回の研究会は原点に立ち返るとともに、このテーマを反対側から眺めてみるいい機会となった。

佐々木 睦



武田雅哉氏を囲んで